

岡山県感染症週報 2015年 第47週 (11月16日～11月22日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2015年 第47週 (11/16～11/22) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第45週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:70代 男)

第46週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:70代 女)

5類感染症 アメーバ赤痢 1名 (20代 女)

侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (80代 女)

第47週 2類感染症 結核 1名 (70代 女)

■定点把握感染症の発生状況

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で57名(定点あたり0.96→1.06人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

○伝染性紅斑は、県全体で23名(定点あたり0.35→0.43人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

○流行性耳下腺炎は、県全体で46名(定点あたり0.69→0.85人)の報告があり、前週より増加しました。真庭地域では、ひきつづき発生レベル3となっています。

○流行性角結膜炎は、県全体で15名(定点あたり0.33→1.25人)の報告があり、前週より増加しました。

○インフルエンザは、県全体で13名(定点あたり0.14→0.15人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第48週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました。(11月24日)

- 12月1日は『世界エイズデー』です。岡山県では『世界エイズデー(12月1日)』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動及び全ての保健所・支所で夜間等のHIV抗体検査を実施します。詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で57名(定点あたり0.96→1.06人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。地域別では、倉敷市(2.09人)、真庭地域(2.00人)、岡山市(1.29人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。例年、冬季に患者が多く報告されますので、今後の県内の発生状況に注意し、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
- 伝染性紅斑(リンゴ病)**は、県全体で23名(定点あたり0.35→0.43人)の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態が続いています。地域別では、岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域、美作地域で、患者の発生が報告されています。この感染症は、妊娠中、特に妊娠初期に感染した場合、胎児異常(胎児水腫)や流産の危険があります。妊婦の方は、周囲で患者の発生がみられる時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意するとともに、家庭内で感染した人がいる場合は、必ず産婦人科で相談しましょう。
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、県全体で46名(定点あたり0.69→0.85人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、前週にひきつづき真庭地域(5.00人)で定点あたり報告数が多くなっており、「発生レベル3」となっています。この感染症は、ムンプスウイルスによるもので、予後は一般に良好です。しかし、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な薬剤はなく、治療は対症療法が中心となります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
- 流行性角結膜炎**は、県全体で15名(定点あたり0.33→1.25人)の報告があり、前週より増加しました。県全体の報告数の約半分を、備前地域が占めており、定点あたり報告数は7.00人と前週(3.00人)より倍増しました。この感染症は、アデノウイルスによる眼の感染症で、8～14日の潜伏期間の後、まぶたの浮腫、結膜の充血、眼ヤニ、流涙、眼痛などの症状を呈します。有効な薬剤はなく、対症療法による治療が行なわれます。このウイルスは、とても感染力が強く、人と接触する機会の多い家庭や職場、病院などで流行します。感染した際には、眼を触らないよう気を付け、触ったら石鹸と流水でよく手を洗う、タオルや洗面器などの共用は避ける、家庭内での入浴は最後にするなど、感染予防に努めましょう。
- インフルエンザ**は、県全体で13名(定点あたり0.14→0.15人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	→	★	RSウイルス感染症	→	★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↗	★★★★★
突発性発疹	↗	★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↓	★	流行性耳下腺炎	↗	★★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	↑	★★★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	★★
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少
 : 1.1~2倍未満の減少
 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加
 : 2倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症 後天性免疫不全症候群（AIDS）

2015年12月1日 世界エイズデー
『AIDS IS NOT OVER だから、ここから』

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する正しい知識の啓発活動が行われています。
[・API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

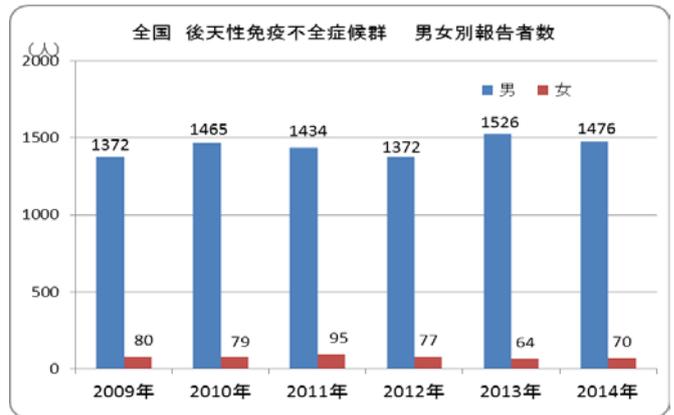
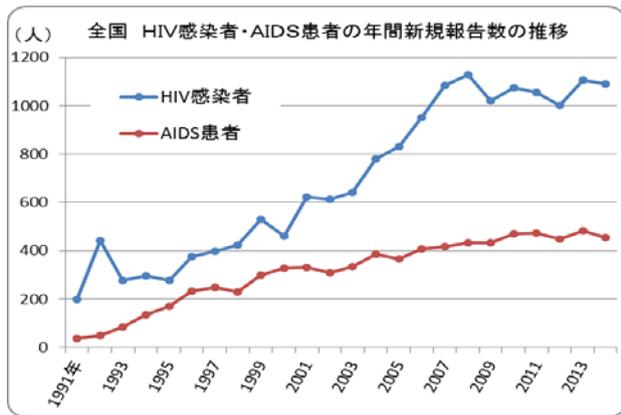
厚生労働省エイズ動向委員会のおよめによると、2014年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数と、感染に気づかずにAIDSを発症して報告されたAIDS患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、24,000件に達しました。また最近では地域的、年齢的にも広がりを見せ、依然として予断を許さない状況です。

レッドリボン
エイズに対する理解と支援の象徴



【全国の発生状況】

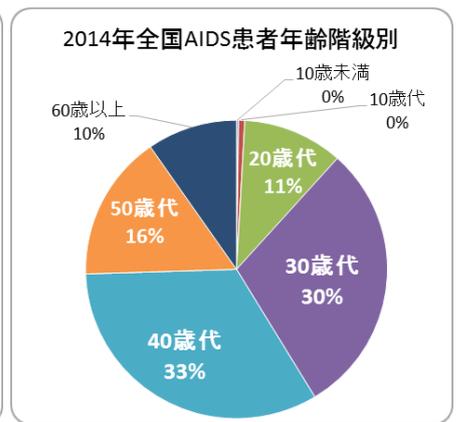
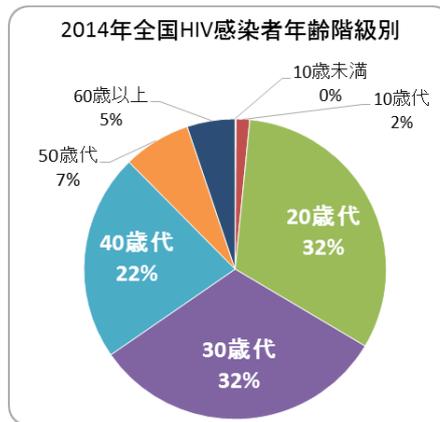
HIV感染者及びAIDS患者ともに、日本国籍男性が報告数の大半を占めています。2014年エイズ発生動向年報によると、HIV感染者の新規報告数は、1,091件（前年1,106件）でした。2007年以降、年間1,000件を超える報告がされており、ほぼ横ばいで推移しています。AIDS患者の新規報告数は、455件（前年484件）と、2006年以降、年間400件以上に上っており、2010年以降横ばい状態が続いています。感染経路では、HIV感染者の72.3%、AIDS患者の56.7%が、同性間性的接触による感染でした。なお、HIV感染者、AIDS患者ともに、静注薬物使用や母子感染によるものはいずれも1%未満にとどまっています。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 26 (2014) 年 エイズ発生動向データより作成

年齢階級別では、HIV 感染者は 20～30 歳代に多く、20 歳代の報告数は過去最多となりました。また AIDS 患者は 30 歳以上に多く、HIV 感染者と比較して、年齢が上がるとともに全体を占める割合が高くなっています。

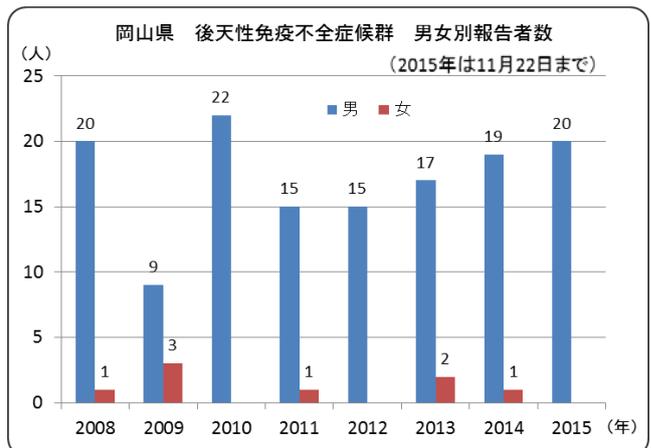
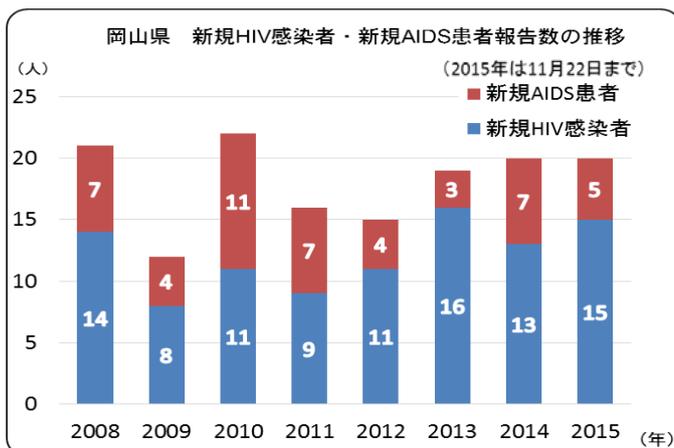
HIV 感染者の年齢階級別感染経路では、年齢が上がるにつれて男性の異性間性的接触の割合が高くなる傾向がみられます。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 26 (2014) 年 エイズ発生動向データより作成

【岡山県の発生状況】

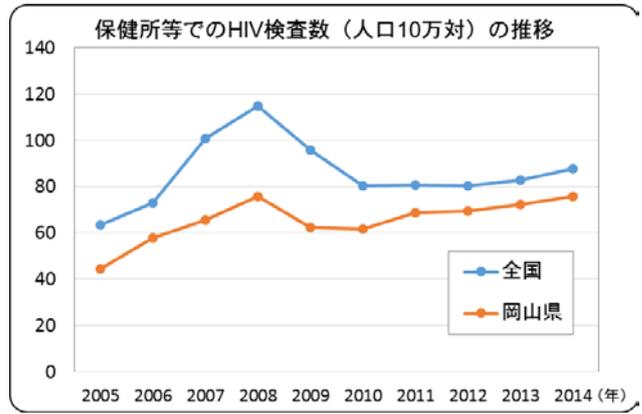
エイズ発生動向調査によると、2014 年の岡山県における HIV 感染者は 13 名、AIDS 患者は 7 名でした。2015 年の発生状況について、11 月 22 日までに報告された HIV 感染者は 15 名、AIDS 患者は 5 名であり、両者合わせた新規報告数は 20 名と、すでに昨年と同数になっています。また、男女別ではすべて男性でした。



厚生労働省エイズ動向委員会 平成 26 (2014) 年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2015 年のデータを追加して作成

【岡山県内の保健所における相談件数・HIV 抗体検査】

2014 年岡山県内の保健所における相談件数は、前年より増加しました。岡山県内の保健所及び拠点病院での HIV 検査数 (人口 10 万あたり) は、2 年連続で増加しましたが、全国の保健所等での HIV 検査数 (人口 10 万あたり) と比較して少ない状態です。



HIV 検査について

HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIV に感染してから AIDS 発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気付かないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIV は、たとえ感染しても感染を早期に発見すれば服薬等をつづけることで、AIDS の発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療が AIDS 発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

岡山県の保健所等の HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	抗体検査	備前・美作保健所 即日（約 1 時間後）	感染が疑われる機会があつてから 3 ヶ月経過後	無料	必須	匿名
		その他の保健所・ 支所 1 週間後				
拠点病院	抗原抗体検査	即日 (1~2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1000 円	必須	匿名では、受 けられない

HIV 感染者……感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

AIDS 患者（いきなりエイズ*）……受診時、すでに AIDS を発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS 患者として報告されたもの（既に HIV 感染者と報告されている症例が AIDS を発症する等病状に変化を生じた場合は除く）。

※「いきなりエイズ」とは、AIDS 発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。

HIV 感染後 AIDS 発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

**12 月 1 日の世界エイズデーにあわせて、
岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。**

平成 27 年度 保健所における世界エイズデー関連 HIV 夜間検査等実施日時

○岡山県では、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を 3 つの柱として、全県を挙げて、HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成 25 年度から実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査・性感染症相談はこちらから
[岡山県保健所・支所](#) [岡山市保健所](#) [倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院の HIV 検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

【後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）とは】

AIDSは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気ですが、HIV感染＝AIDSということではありません。HIV感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な23の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、AIDS発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでAIDS発症を予防することが可能になっています。

HIVに感染すると、通常6～8週間経過して、血液中にHIV抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、こういった症状からだけではHIVに感染しているかどうかを確認することはできません。HIV検査を受けてはじめて、感染の有無を確認することができます。

【感染経路】

HIVの感染経路は、次の3つです。

- (1) 性行為による感染…感染者の血液や精液、膣分泌液内のHIVが、性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口から体内に入ることによって感染します。
- (2) 血液を介しての感染…注射の回し打ちなどによって感染します。なお、血液凝固因子製剤については、加熱処理が行われているため、現在の血液製剤で感染する心配はありません。
- (3) 母親から赤ちゃんへの母子感染…母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時、また母乳から感染することがあります。日本では、母親がHIV感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで、赤ちゃんへの感染を1%以下に抑えることができます。

【予防方法】

性行為におけるコンドームの正しい使用は、HIV感染/AIDS予防にとって最も有効な手段です。HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。

[・エイズQ&A（エイズ予防情報ネット）](#)

**HIV検査など性感染症検査目的での献血は、
絶対に行わないでください!**

HIVやその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIVが陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV等性感染症の検査は、保健所および医療機関などで受けてください。

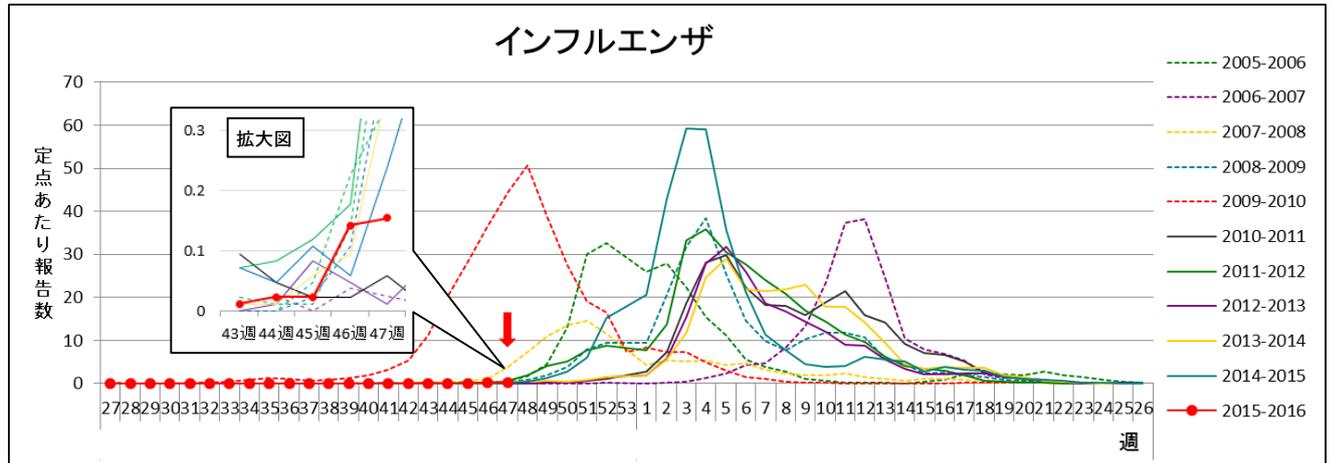
インフルエンザ週報 2015年 第47週 (11月16日～11月22日)

岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で13名の発生がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。

【第48週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が3施設でありました(11月24日)。



インフルエンザは、倉敷市11名、備前地域2名の報告があり、県全体では13名(定点あたり0.14→0.15)の発生となりました(84定点医療機関報告)。県内の患者発生はまだ散発的ですが、倉敷市(0.13→0.25→0.69)では、定点あたり報告数が2週連続で増加しています。

第46週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は0.14人であり、発生はまだ散発的です。都道府県別では、沖縄県(0.91人)、静岡県(0.39人)、宮城県(0.29人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、第48週、すでに岡山市・備前地域の小学校・高等学校で臨時休業も報告されています。外出後は手洗いを励行し、感染予防を心がけましょう。

[IDWR 速報データ 2015年第46週 \(国立感染症研究所\)](#)

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

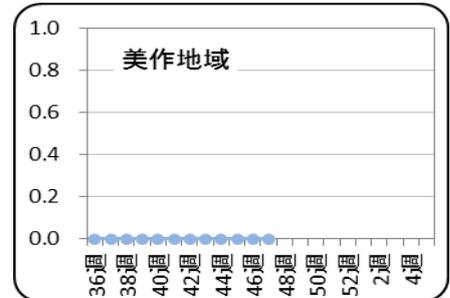
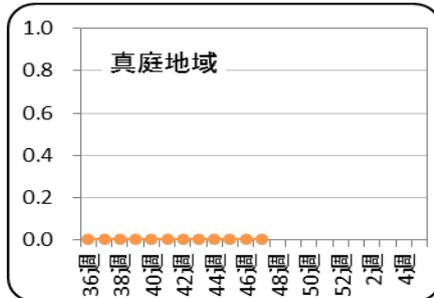
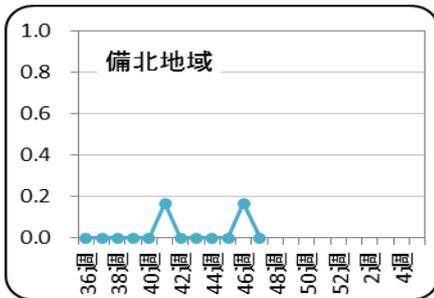
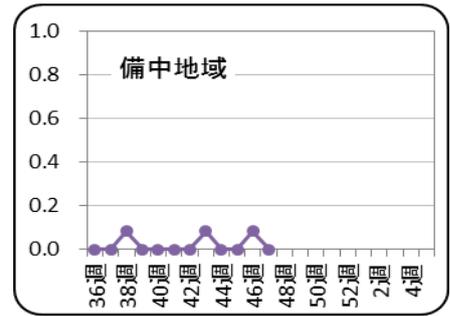
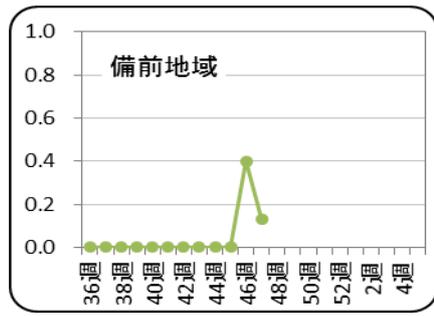
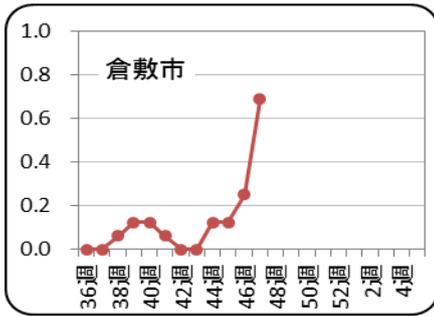
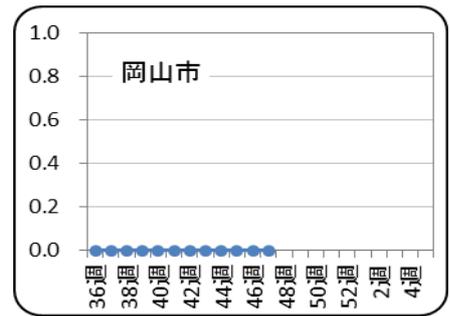
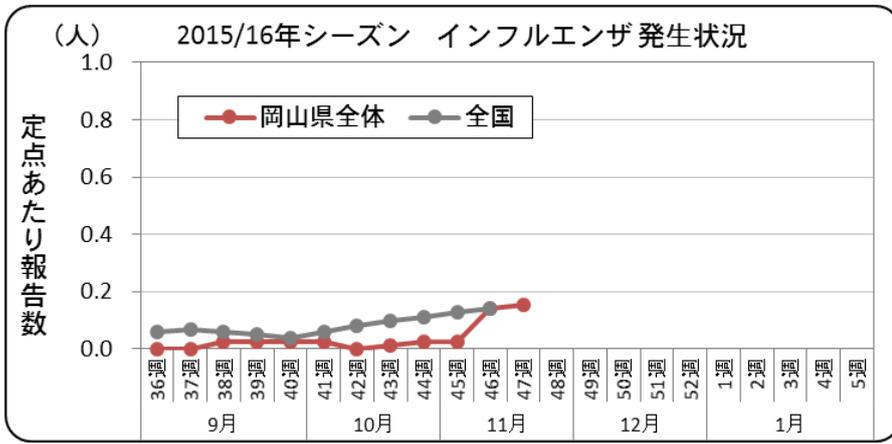
[平成27年度 今冬のインフルエンザ総合対策について\(厚生労働省\)](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	13	➡	備中	患者数	0	⬇
	定点あたり	0.15			定点あたり	0.00	
岡山市	患者数	—	➡	備北	患者数	0	⬇
	定点あたり	—			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	11	⬆	真庭	患者数	—	➡
	定点あたり	0.69			定点あたり	—	
備前	患者数	2	⬇	美作	患者数	—	➡
	定点あたり	0.13			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移
 ⬇ : 2倍以上の減少 ⬆ : 1.1～2倍未満の減少 ➡ : 1.1未満の増減
 ⬆ : 1.1～2倍未満の増加 ⬆ : 2倍以上の増加



2. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

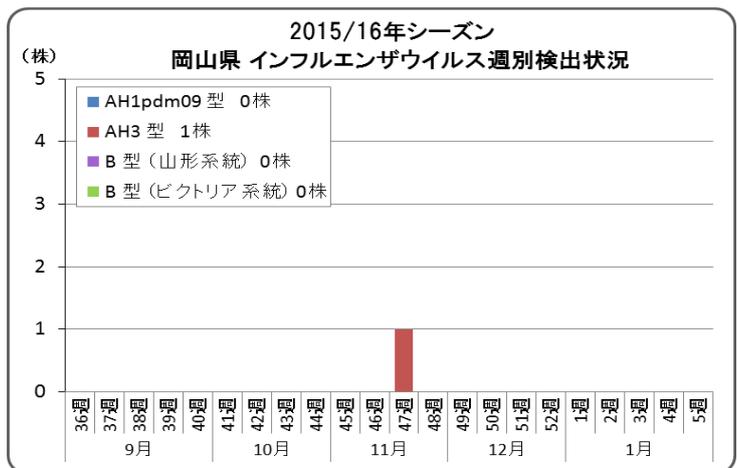
インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

3. インフルエンザウイルス検出状況

第47週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH3型が1株でした。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型45株、AH1pdm09型27株、B型18株となっています。(2015年11月20日現在)

[インフルエンザウイルス分離・検出速報](#)
(国立感染症研究所)



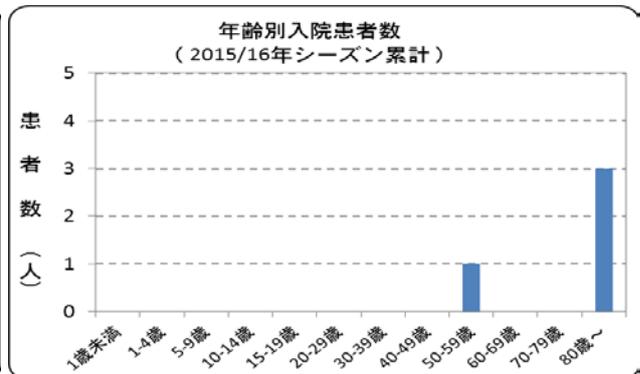
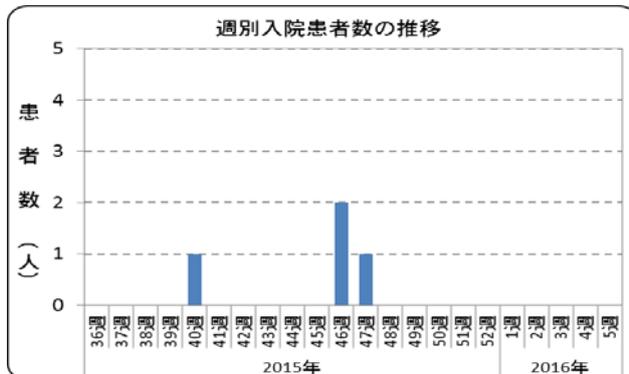
【第47週 判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別
インフルエンザウイルスAH3型	2015年第47週(11/16~11/22)	2015/11/17	備前	中学生	男

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（80 歳以上）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数									1			3	4
ICU 入室									1				1
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず												3	3

* 重複あり

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2 週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる 12 月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。

定期予防接種対象者

- * 65 歳以上の方
- * 60～64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 47週 （2015/11/16～2015/11/22）

2015年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	13	0.15	-	-	11	0.69	2	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	50	0.93	24	1.71	18	1.64	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	6	1.00
咽頭結膜熱	11	0.20	8	0.57	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	18	1.29	23	2.09	4	0.40	5	0.71	2	0.50	4	2.00	1	0.17
感染性胃腸炎	332	6.15	78	5.57	77	7.00	72	7.20	28	4.00	30	7.50	21	10.50	26	4.33
水痘	32	0.59	9	0.64	10	0.91	3	0.30	7	1.00	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	9	0.17	5	0.36	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	23	0.43	12	0.86	6	0.55	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	22	0.41	9	0.64	7	0.64	2	0.20	2	0.29	-	-	1	0.50	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	46	0.85	15	1.07	6	0.55	2	0.20	-	-	6	1.50	10	5.00	7	1.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	1.25	3	0.60	4	1.00	7	7.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 47週 （2015/11/16～2015/11/22）

2015年11月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	13	0.15	-	-	11	0.69	2	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	0.20	8	0.57	2	0.18	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	1.06	18	1.29	23	2.09	4	0.40	5	0.71	2	0.50	4	2.00	1	0.17
感染性胃腸炎	332	6.15	78	5.57	77	7.00	72	7.20	28	4.00	30	7.50	21	10.50	26	4.33
水痘	32	0.59	9	0.64	10	0.91	3	0.30	7	1.00	-	-	-	-	3	0.50
手足口病	9	0.17	5	0.36	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	23	0.43	12	0.86	6	0.55	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	46	0.85	15	1.07	6	0.55	2	0.20	-	-	6	1.50	10	5.00	7	1.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	1.25	3	0.60	4	1.00	7	7.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第47週 2015/11/16～2015/11/22)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	13	1	-	-	1	1	1	1	-	-	-	1	2	-	2	1	2	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	50	14	9	13	5	3	1	1	3	-	-	1	-	-	
咽頭結膜熱	11	-	-	2	1	2	-	2	3	1	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	-	-	1	1	5	10	4	10	5	8	3	8	-	2
感染性胃腸炎	332	3	17	64	50	26	30	20	15	14	11	10	24	8	40
水痘	32	-	2	6	3	5	5	1	2	-	3	1	4	-	-
手足口病	9	-	-	4	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	23	-	-	2	2	2	3	4	3	3	3	-	1	-	-
突発性発疹	22	-	11	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	46	-	-	1	1	6	3	8	4	6	4	6	5	-	2

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	15	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	3	4	2	1	2	1

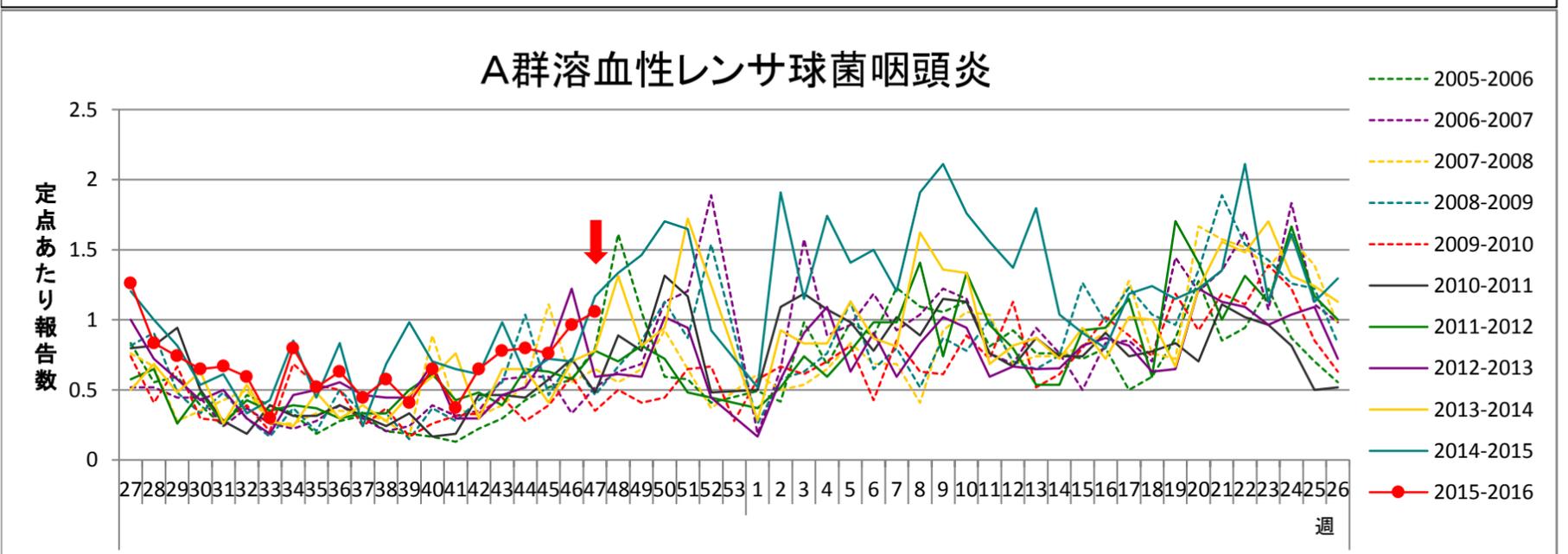
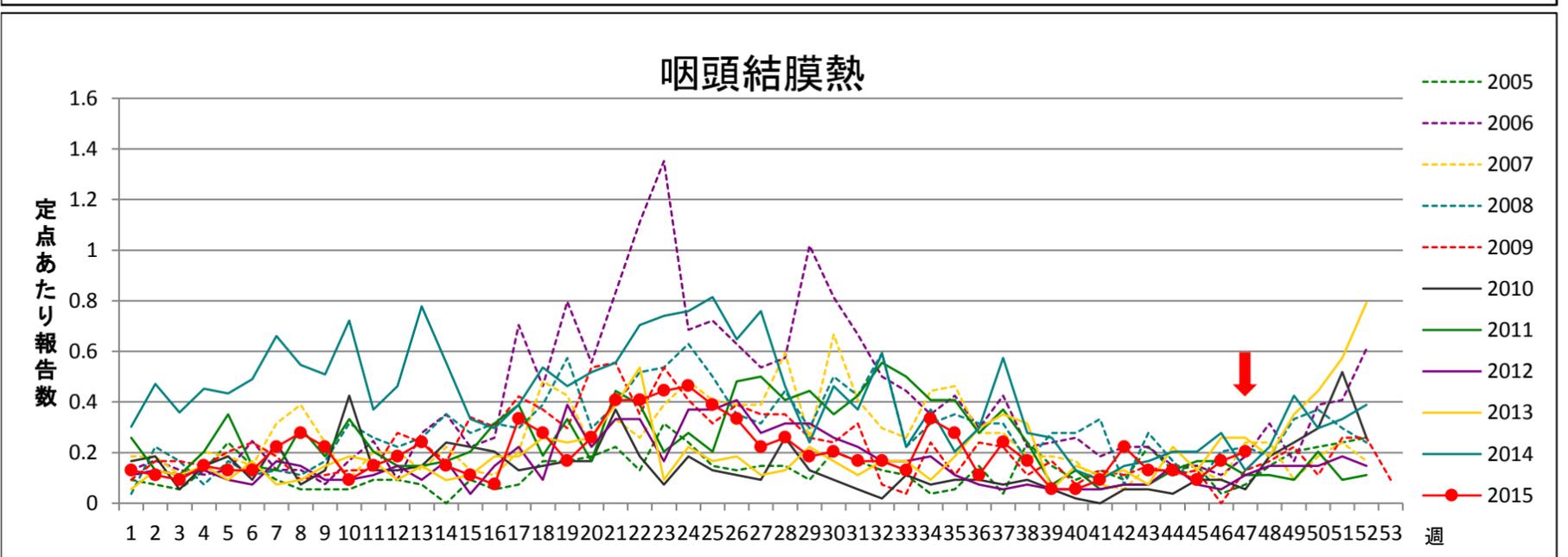
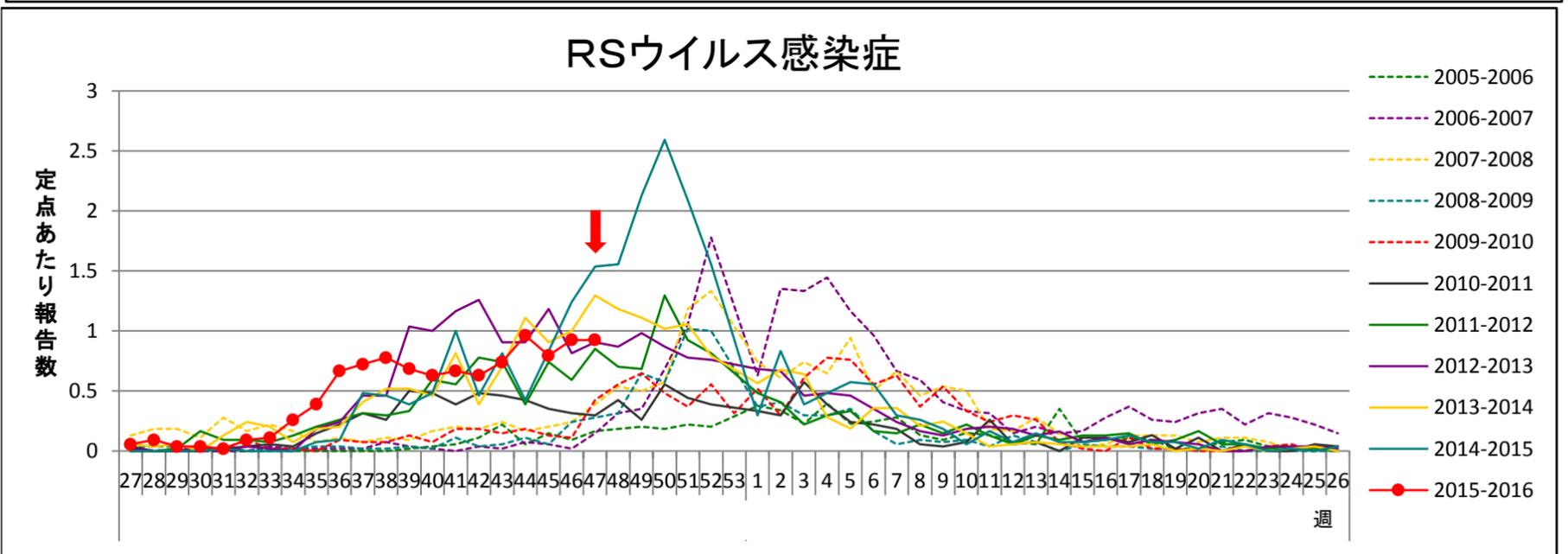
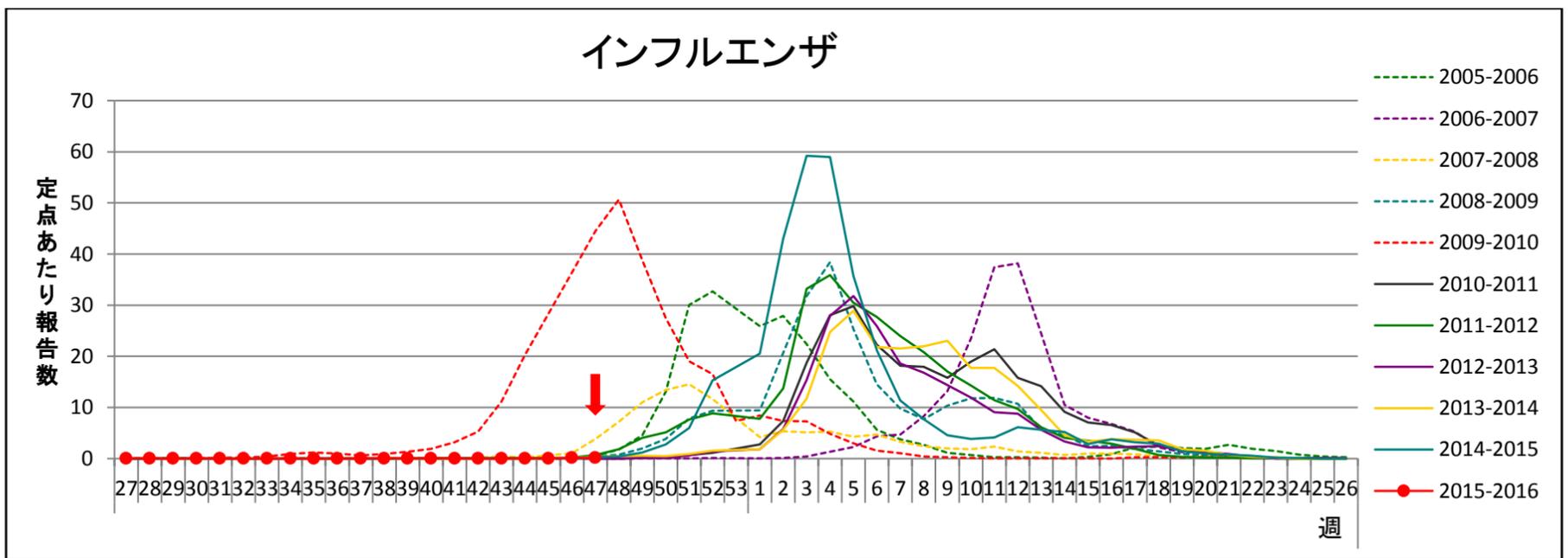
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

(- : 0)

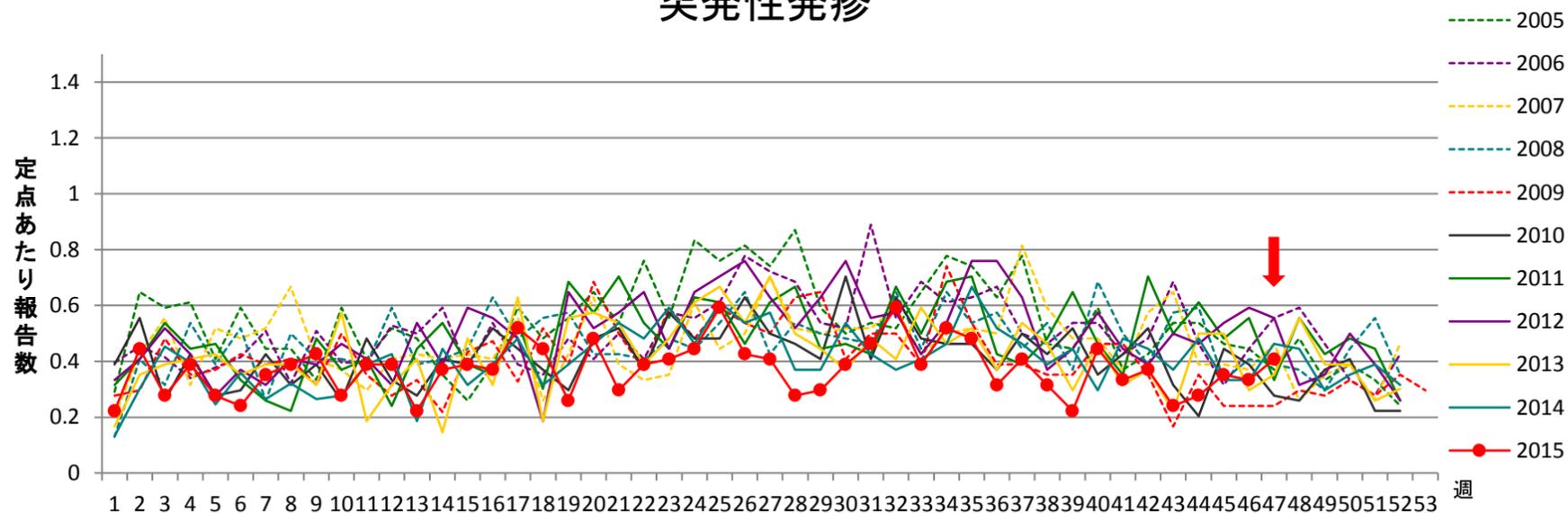
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 47週

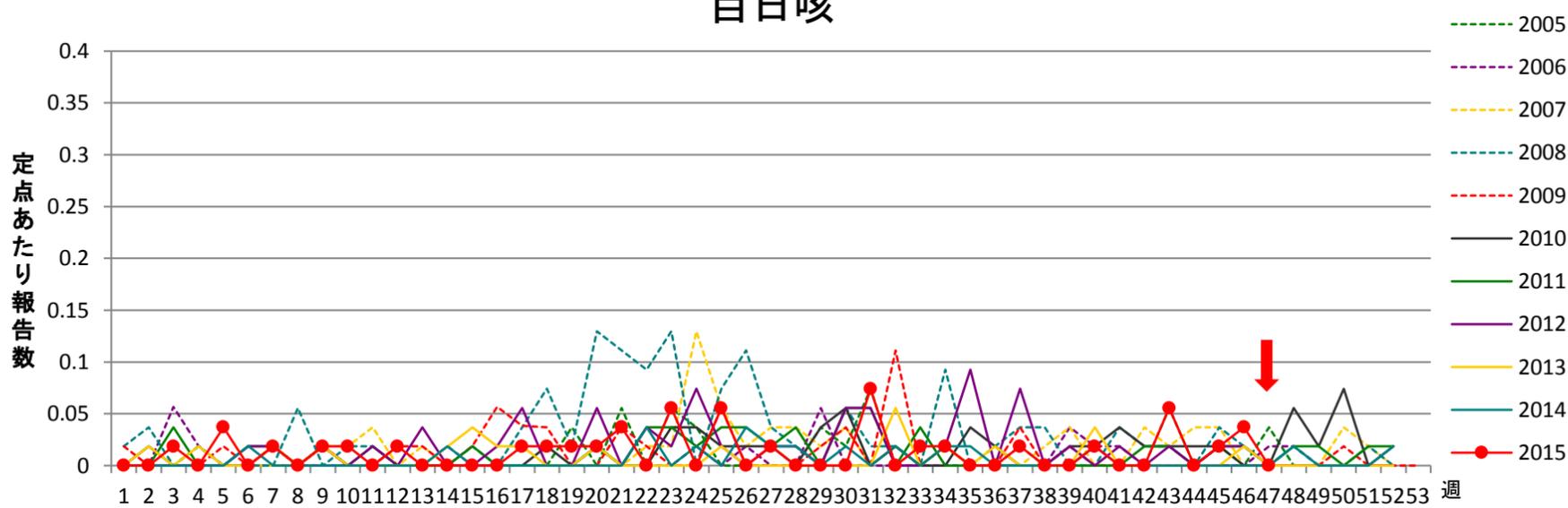
分類	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014	疾病名	2015		2014
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	328	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	2	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	63	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	3	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	6	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	2	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	2	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	24	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	17	12	ウイルス性肝炎*3	-	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	29
急性脳炎*4		-	11	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	2	3	後天性免疫不全症候群	-	20	19	ジアルジア症	-	3	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	28	27
水痘(入院例に限る。)		-	5	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	18	21
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



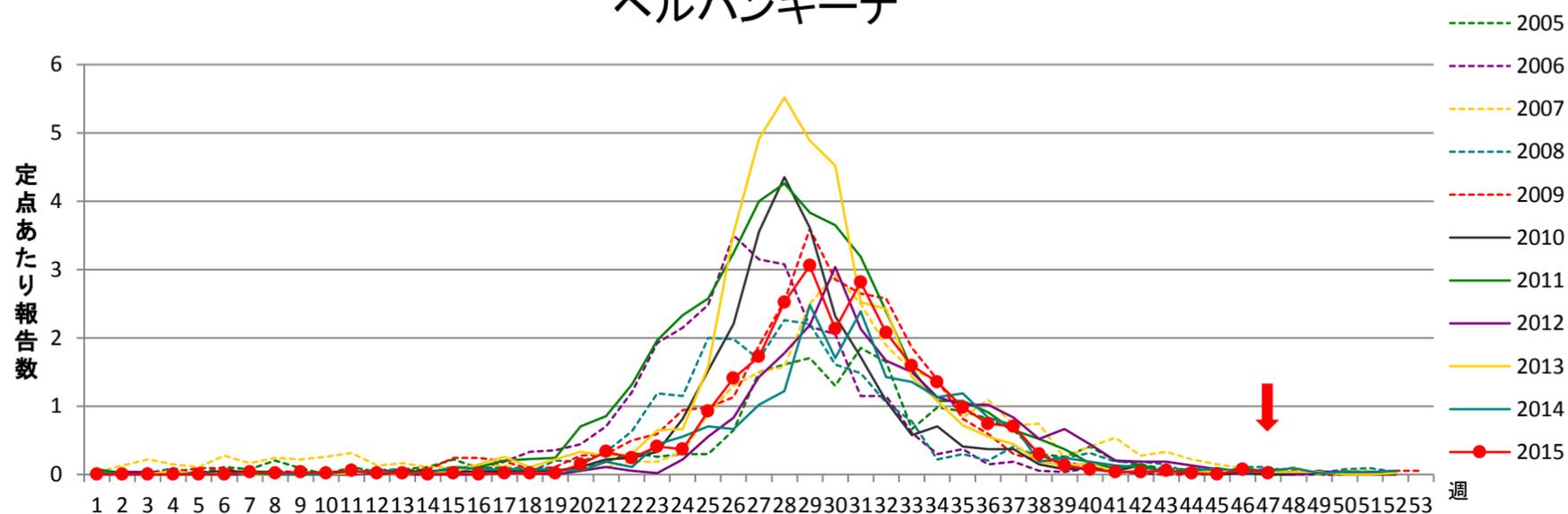
突発性発疹



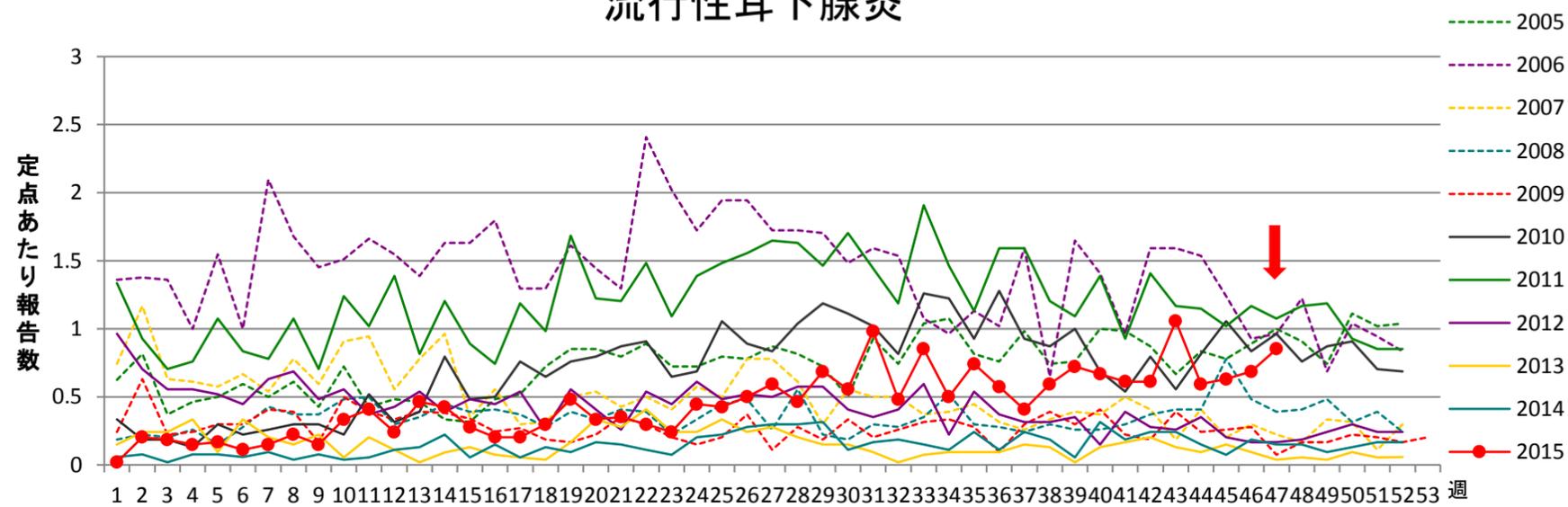
百日咳



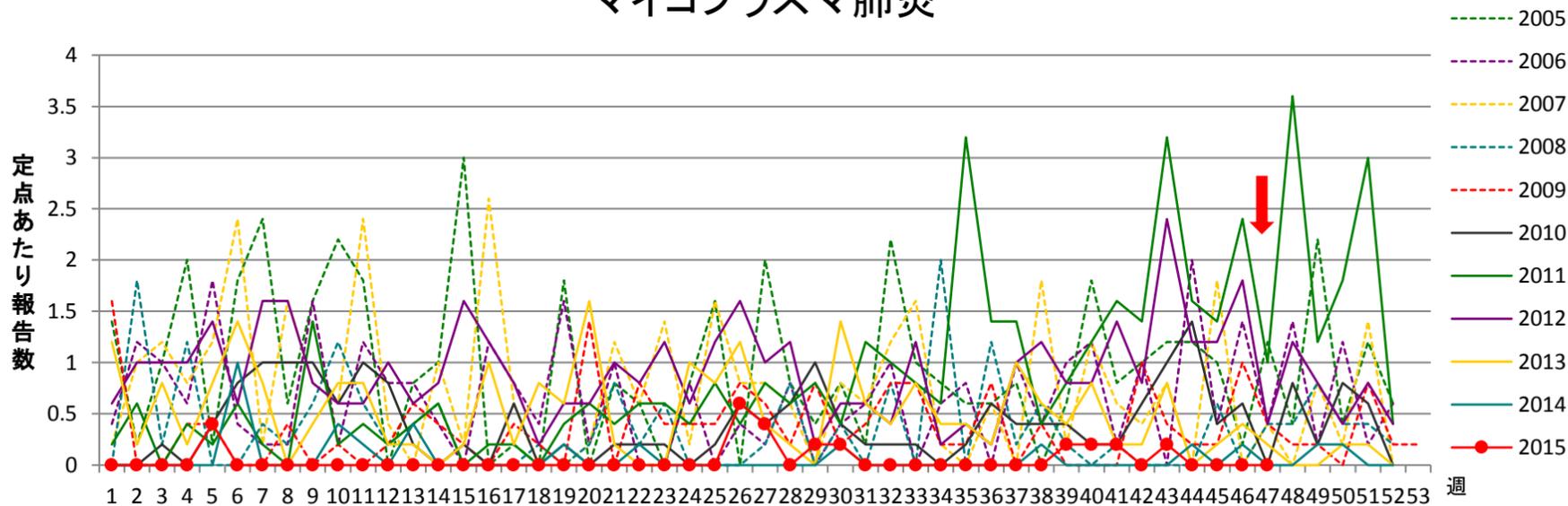
ヘルパンギーナ



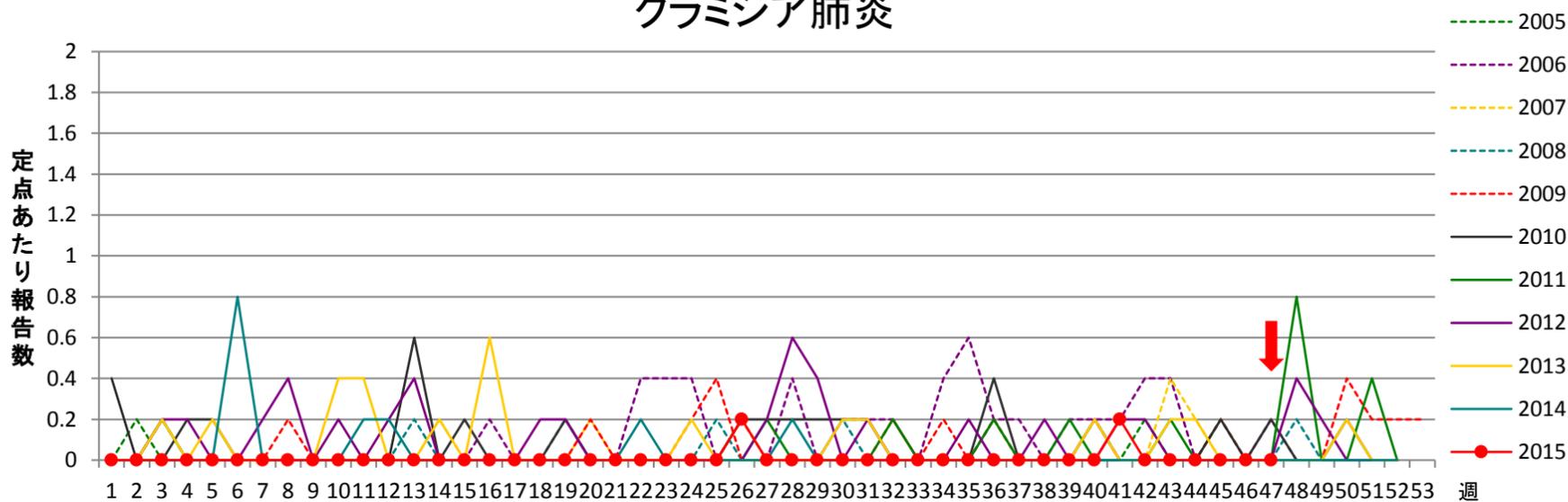
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

